



安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

昭和化学株式会社
 東京都中央区日本橋本町4-3-8
 担当
 TEL(03)3270-2701
 FAX(03)3270-2720
 緊急連絡 同上
 改訂日 2020/06/10
 SDS整理番号 03077256

製品等のコード : 0307-7256

製品等の名称 : しゅう酸カルシウム一水和物

推奨用途 : 試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
 触媒原料 など



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性
 水反応可燃性化学品 : 区分外

健康に対する有害性
 急性毒性(経口) : 区分4

注意喚起語：警告

危険有害性情報
 飲み込むと有害(経口)

注意書き

【安全対策】

取扱い後は、よく手を洗うこと。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。

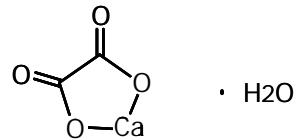
【保管】

直射日光を避け、容器を密閉し冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。



3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 単一製品
 化学名 : しゅう酸カルシウム一水和物
 (別名) しゅう酸カルシウム・水和物
 (英名) Calcium oxalate monohydrate、
 Oxalic acid calcium salt monohydrate、
 Calcium oxalate (無水物として、EC名称)、
 Ethanedioic acid, calcium salt (1:1)
 (無水物として、TSCA名称)
 成分及び含有量 : しゅう酸カルシウム一水和物、95.0%以上
 化学式及び構造式 : CaC₂O₄·H₂O、構造式は上図参照(1ページ目)。

分子量 : 146.11
 官報公示整理番号 化審法 : (2)-922
 安衛法 : 公表化学物質（化審法番号を準用）
 CAS No. : 5794-28-5（無水物：563-72-4）
 EC No. : 209-260-1（無水物として）
 危険有害成分 : しゅう酸カルシウム一水和物
 ・毒物及び劇物取締法 劇物「碳酸塩類」

4. 応急処置

吸入した場合 : 呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
 気分が悪い時は、医師の治療を受ける。

皮膚に付着した場合 : 直ちに、皮膚を多量の水と石鹸で洗う。
 皮膚刺激などが生じた場合、医師の手当を受ける。
 汚染された作業衣は作業場から出さない。
 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。

目に入った場合 : 直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。
 まぶたを親指と人さし指で拡げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。
 次に、コンタクトレンズを着用して固着していなければ除去し、洗浄を続ける。
 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。

飲み込んだ場合 : 速やかに、口をすすぎ、うがいをする。
 大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。
 意識がない時は、何も与えない。もし、嘔吐が自然に生じた時は、気管への吸入が起きないように、頭を尻より下に身体を傾斜させ、肺への還流を防ぐ。嘔吐後、意識が戻れば、水を飲ませる。体の保温に努め、速やかに医師の診察を受ける。
 気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。

予想される急性症状及び遅発性症状：情報なし

5. 火災時の処置

消火剤 : この製品は難燃性である。
 特定の条件下において可燃性である。
 粉末消火薬剤、水噴霧、泡消火薬剤、二酸化炭素など、火災に適応した消火剤を使用する。

使ってはならない消火剤 : 棒状注水（本品があふれ出し、生物に対する有害性や環境汚染を引き起こすおそれがある。）

特有の危険有害性 : 火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
 消火水は環境汚染を引き起こすおそれがある。

特有の消火方法 : 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
 風上から消火活動をする。
 環境に影響を出さないよう、できるだけ流出を防止する。

消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
 皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。
 風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。
 粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。
 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。

環境に対する注意事項 : 河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
 回収、中和 : 漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。
 漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。
 下水や側溝などに入り込まないように留意する。
 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。
 後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。

封じ込め及び浄化の方法・機材 : 危険でなければ漏れを止める。
 二次災害の防止策 : 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
 すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い	
技術的対策	： 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。 粉じん、ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。 粉じんの堆積を防止する。
局所排気・全体換気 安全取扱い注意事項	： 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。 ： 裸火禁止。 強酸化剤との接触禁止。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの 取扱いをしてはならない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 屋外または換気のよい区域でのみ使用する。
接触回避	： 湿気、水、高温体との接触を避ける。
保管	
技術的対策	： 保管場所の出入口は施錠する。 保管場所は、必要な採光、照明と換気装置を設置する。
保管条件	： 直射日光や高温多湿を避ける。 容器を密閉して換気のよい冷暗所に保管する。 一定の場所を定めて、施錠して保管する。 貯蔵する所には、白地に赤枠、赤文字で「医薬用外劇物」の表示を行う。 使用後は、容器を密栓する。 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管する。
混触危険物質	： 強酸化剤
容器包装材料	： ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラスなど

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	： 未設定
許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）：	
日本産衛学会（2019年版）	未設定
ACGIH（2019年版）	未設定
設備対策	： この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	： 呼吸器保護具（防じんマスク）を着用する。
手の保護具	： 保護手袋（塩化ビニル製、ニトリル製など）を着用する。
眼の保護具	： 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
皮膚及び身体の保護具	： 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて保護前掛け、保護長靴、安全帽を着用する。
衛生対策	： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 作業衣を家に持ち帰ってはならない。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など	： 白色の粉末
臭い	： 無臭
pH	： データなし
融点・凝固点	： 分解（200 で無水物に変化）
沸点	： 分解
引火点	： データなし
爆発範囲	： データなし
蒸気圧	： データなし
蒸気密度（空気 = 1）	： データなし
比重（密度）	： 2.2 g/cm ³ （20 ）
溶解度	： 水にほとんど溶けない。 希塩酸、希硫酸に溶ける。 エタノールにほとんど溶けない。
オクタノール／水分配係数	： データなし
自然発火温度	： データなし
分解温度	： データなし
粘度	： データなし

GHS分類
水反応可燃性化学品 : 本品は水にほとんど溶けないが、水に対して安定であると考えられるので、区分外とした。

10. 安定性及び反応性

安定性 : 通常取扱条件において安定である。
200 の加熱により、結晶水を失い無水物を生成する。
危険有害反応可能性 : 強酸化剤と混触すると反応することがある。
避けるべき条件 : 日光、高熱
混触危険物質 : 強酸化剤
危険有害な分解生成物 : 一酸化炭素、二酸化炭素、酸化カルシウム

11. 有害性情報

急性毒性 : 経口 データはないが、劇物のしゅう酸塩として、飲み込むと有害であると考えられるので、区分4とした。
飲み込むと有害(経口)(区分4)
経皮 データがないため分類できない。
吸入(蒸気) データがないため分類できない。
吸入(粉じん) データがないため分類できない。
ただし、粉じんを吸入すると有害のおそれがある。
皮膚腐食性・刺激性 : データ不足のため分類できない。
ただし、しゅう酸塩として皮膚に付くと刺激、発赤のおそれがある。
眼に対する重篤な損傷・刺激性 : データ不足のため分類できない。
ただし、しゅう酸塩として眼に入ると刺激のおそれがある。
呼吸器感作性又は皮膚感作性 : 呼吸器感作性：データがないため分類できない。
皮膚感作性：データがないため分類できない。
生殖細胞変異原性 : データがないため分類できない。
発がん性 : 知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAの国際評価機関の報告がないため、分類できないとした。
生殖毒性 : データがないため分類できない。
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露) : データ不足のため分類できない。
ただし、ばく露を受けると、中枢神経系、腎臓に障害がおきることがある。また、呼吸器への刺激のおそれがある。
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露) : データ不足のため分類できない。
ただし、長期又は反復ばく露により腎臓に障害がおきることがある。
吸引性呼吸器有害性 : データがないため分類できない。

参考1/2【しゅう酸ナトリウム〔CAS No.62-76-0〕のデータ】

急性毒性 : 経口 ラット LD50 = 11160mg/kg (RTECS)
マウス LD50 = 5094mg/kg (RTECS)
腹腔 マウス LD50 = 155mg/kg (RTECS)
皮下 マウス LD50 = 100mg/kg (RTECS)
皮膚腐食性・刺激性 : データがないため分類できない。
眼に対する重篤な損傷・刺激性 : ECETOC TR48(2)(1998)のウサギの試験では、最終観察日である処置後14日目において3匹中2匹はほぼ回復したものの、残る1匹にはあまり回復がみられなかった。処置後21日目における回復具合のデータはないが、処置後24、48、72時間目のドレイズスコアの平均値、並びに処置後7日目において3匹とも完全な回復はみられなかった。
生殖細胞変異原性 : データがないため分類できない。
発がん性 : 知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAの国際評価機関の報告がないため、分類できないとした。

参考2/2【しゅう酸〔CAS No.144-62-7〕のデータ】

急性毒性 : 経口 ラットの LD50値は3つ報告されている(475mg/kg, 375 mg/kg, 7.5 g/kg)が、毒性の強い2つを採用し区分4とした。
飲み込むと有害(経口)(区分4)
経皮 ウサギでの、20000 mg/kg を not lethal とする報告に基づき、区分外とした。
吸入(蒸気) データがないため分類できない。

皮膚腐食性・刺激性：	吸入（粉じん） データがないため分類できない。 ヒトで airborne dust により皮膚局所に火傷を生じるとの記載、及び、皮膚に対して腐食性を示すとの記載に基づき、区分1とした。 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷（区分1）
眼に対する重篤な損傷・刺激性：	皮膚腐食性区分1に基づき、眼も区分1とした。これは、ヒトで眼にかなり重篤な火傷を生じるとの記載、及び、眼に対して腐食性を示すとの記載によっても支持される。 重篤な眼の損傷（区分1）
呼吸器感受性又は皮膚感受性：	呼吸器感受性：データがないため分類できない。 皮膚感受性：データがないため分類できない。
生殖細胞変異原性：	In vivo 試験のデータが無く、in vitro 変異原性試験でも陽性結果が無いため、分類できないとした。
発がん性：	知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAの国際評価機関の報告がないため、分類できないとした。
生殖毒性：	親動物への影響が不明な条件下で、同腹仔数の減少が報告されているため、区分2とした。 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い（区分2）
特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）：	ヒトで、吸入による 気道腐食性、及び肺水腫が指摘されているため、区分2(呼吸器) とした。 呼吸器の障害のおそれ（区分2）
特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）：	ヒトで、尿路結石の増加が報告されているため、区分1(腎臓) とした。 長期又は反復ばく露による腎臓の障害（区分1）
吸引性呼吸器有害性：	データがないため分類できない。

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性：	データ不足のため分類できない。 大量に水生環境に放出されると、下記のしゅう酸と同様に急性有害性が疑われる。
水生環境慢性有害性：	データ不足のため分類できない。 しゅう酸と同様に急速分解性があり、生物蓄積性が低いと推測されるので慢性有害性は低いと予想される。
オゾン層への有害性：	本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

参考【しゅう酸〔CAS No.144-62-7〕のデータ】

水生環境急性有害性：	甲殻類（オオミジンコ）の48時間EC50 = 15mg/Lから、区分3とした。 水生生物に有害（区分3）
水生環境慢性有害性：	急速分解性があり（TOCによる分解度：100%、かつ生物蓄積性が低いと推定される（log Kow = -2.22））ことから、区分外とした。
オゾン層への有害性：	本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物：	関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。 都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して廃棄物処理を委託する。 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。 （参考）(1)燃焼法 可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉（おが屑）等に混合し、アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室で焼却する。 (2)活性汚泥法 生分解性があるので、低濃度の廃水は活性汚泥処理が可能である。
汚染容器及び包装：	内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。

空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

- 国内規制（適用法令）
 - 陸上規制：毒劇法、道路法の規定に従う。
 - 海上規制：特段の規制なし（非危険物）
 - 航空規制：特段の規制なし（非危険物）
 - 国連番号：非該当
 - 国連分類：非該当
 - 品名：非該当
 - 海洋汚染物質：非該当
 - 特別の安全対策：輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。重量物を上積みしない。車輛等による運搬の際にはイエローカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

- 労働安全衛生法：非該当
- 化学物質管理促進法（PRTR法）：非該当
- 消防法：非該当
- 毒物及び劇物取締法：劇物「碳酸塩類」（法第2条別表第2）、包装等級
- 船舶安全法：非該当
- 航空法：非該当
- 海洋汚染防止法：非該当
- 水質汚濁防止法：生活環境項目（施行令第三条第一項）
「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」
〔排水基準〕160mg/L以下（日間平均 120mg/L以下）
（注）排水基準に別途、条例等による上乘せ基準がある場合はそれに従うこと。
- 輸出貿易管理令：キャッチオール規制（別表第1の16項）第29類 有機化学品
HSコード（輸出統計品目番号、2020年4月1日版）：2917.11-000
「しゅう酸並びにその塩」

16. その他の情報

（注）本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

取扱注意事項：

本製品の取扱いは毒物劇物取締法の規定に従い、購入、保管、使用及び廃棄には細心の注意を払うこと。毒物劇物取扱等の責任者は、必要に応じ取扱う者に対し労働安全衛生、漏洩防止、緊急時の対応、環境影響、使用記録、保管庫施設、紛失盗難防止などについて教育、訓練を実施し、事故の予防に努めること。

参考文献：

- | | |
|--|----------------------------|
| 化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ | 化学工業日報社 |
| 労働安全衛生法MSDS対象物質全データ | 化学工業日報社(2007) |
| 化学物質の危険・有害便覧 | 中央労働災害防止協会編 |
| 化学大辞典 | 共同出版 |
| 安衛法化学物質 | 化学工業日報社 |
| 産業中毒便覧(増補版) | 医歯薬出版 |
| 化学物質安全性データブック | オーム社 |
| 公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編) | 三共出版 |
| 化学物質の危険・有害性便覧 | 労働省安全衛生部監修 |
| Registry of Toxic Effects of Chemical Substances | NIOSH CD-ROM |
| GHS分類結果データベース | nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP |
| GHSモデルMSDS情報 | 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP |

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。